

平成19年度丹後広域振興局の運営目標

中期ビジョン	行政経営
事項1	管内市町、府民との連携強化による行政経営の推進
<p>市町村未来づくり交付金（地域力再生推進枠）を活用し、振興局の職員が地域住民とともに活動する地域力再生モデル的事業を実施していきます。</p> <p>管内2市2町との情報共有と連携を強化するため、管内市町長、副市長・副町長との意見交換会を年4回以上開催するとともに、課長、職員レベルでも連携を密にし、地域課題に対応していきます。</p> <p>丹後活動プランに基づく事業を府民の意見を踏まえて拡充していくために、振興局のホームページ等により、府民に多面的な情報提供を行うとともに、「たんご活動プランニュース」を年2回（全戸配布）、たんご活動プランニュースレターを年2回発行します。</p>	

地域振興計画	観光振興と交流・定住の推進
事項1	多様な資源を活用した新たな観光・交流・定住施策の展開
<p>丹後広域観光キャンペーン協議会と連携し「私のふるさと丹後」を目指した新たな観光戦略事業を積極的に展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光入込者数目標 600万人 「丹後ふるさと検定」の実施（受検者100人以上） 主に丹後地域の人々（特に観光関連事業者等）が地域の魅力を再発見するための学習機会を提供し、観光ガイドの育成や地域のもてなし意識を向上 (1)検定用教材の発行：平成19年6月1日～ (2)セミナーの実施：第2回6月28日、第3回9月14日 (3)検定日：10月14日 (4)検定合格者を丹後観光口コミ大使（仮称）として組織化しPR活動を強化 大都市圏（東京、大阪）で大手旅行会社、マスコミ、丹後観光大使を対象に観光資源のPRとともにトリガイ、アワビなどの海産物、農産物、加工食品の試飲試食会、丹後ちりめんなどの丹後特産品の展示会を実施 中国、韓国、台湾、香港などの旅行会社を対象とした丹後案内ツアーの実施及び観光関連団体を対象とした中国語講座の開催 地域資源を広く紹介する新たな観光案内テープの作成、トレインデザインコンペの実施など、KTRと連携した新たな観光魅力づくりの実施 「丹後学講座」の開催（京都市内）と「探訪の旅」の実施による学び観光の推進 丹後の食材を活かした料理コンテストの開催など、四季を通じた丹後の魅力ある食の開発 漁船クルージング等、テーマ性、趣味性の高い丹後独自のツアーコースの開拓 丹後天橋立大江山国定公園（仮称）の新規指定、琴引浜の国の天然記念物及び名勝の新規指定について、市町、NPO等と連携してPRを実施 <p>丹後地域内の企業、商工観光団体、府、市町が一体となって結成した「丹後きものネット」を中心に、昨年に引き続き、ゆかた、きものを楽しむ日、月間を設定し、和装のPRとともに、観光資源の創出を図り、和装振興と観光産業を活性化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> きものパスポートマップの作成などの取組に加えて、次の取組を実施 (1)他府県からきもの楽しむツアーの実施 (2)きもの古着市とともに、「古着を洋服にリサイクルするコーナー」、「丹後で織り、染め、仕立てを行った「丹後丸ごときもの市」」を実施 (3)地域で行うきものを着用したイベントを倍増（6箇所 目標12箇所） 	

「期間定住」や「定住」への円滑な移行を促進するために、定住希望者の多様なニーズに応じて「地域の魅力」を総合的に提供する経営体を検討し、「農のある暮らし百貨店」づくりに着手します。

(1)丹後の多様な地域資源を活用して作る「商品」を対価をもって都市住民に提供する、「農のある暮らし百貨店」づくり事業によるモデル地域(1地域)を設定し、経営体づくり委員会を開催(3回)

(2)地域資源の商品化(商品づくり数10)

伊根町筒川地区で、「農のあるライフスタイル実現プロジェクト」推進事業による都市部と農村部の交流を拡大します。

(1)むらづくり委員会の主体的活動強化

委員会主催による座談会・交流会の開催により、地域への波及。(地域ビジョン策定に向けた交流会：1集落、定住希望者との交流受け入れ：2集落、情報紙の発行：4回以上)

(2)空き家情報登録のシステムづくり

(3)定住者受け入れルールのできる集落 2集落

地域振興計画	農林水産業の振興
事項1	地域の特色を引き出す農林水産業の振興
<p>丹後国営開発農地で新しい茶の産地づくり(総植栽面積40~50ha)に向けて、次の事業を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製茶工場建設計画の策定支援(年内策定予定) ・新規茶植栽面積10ha(現在30ha 40ha) ・生育不良茶園の約1/6(約1ha)の改善 <p>「丹後コシヒカリの里づくり推進事業」により、将来を見据え、集落にあった営農体制の充実と経営安定のための経営戦略づくりを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略づくり等延べ8集落で実施 <p>みず菜をはじめとした地域にあったブランド京野菜の生産振興を進め、出荷量の増加を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標出荷量：単位t、()は平成18年度実績 みず菜497(453) 九条ねぎ48(45) 聖護院だいこん47(23)など <p>エコファーマーのネットワーク化により、生産者と消費者が一体となった取組を支援し、環境に優しい農林水産物の生産と地域の中心的な担い手を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコファーマーによる流通・消費現場のニーズ調査(1回) 流通業者・消費者による生産現場ツアー(1回) エコファーマー、流通業者、消費者のワークショップ(1回)など <p>新規就農者の確保及び経営改善、高齢者等を対象とした農業支援、集落営農組織の育成などにより、担い手と後継者を育成していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな個別経営体法人化の設立 1法人 ・設立直後の集落営農型法人の支援 1法人 ・農業基礎講座8回。終了時に10名以上の営農者を確保 <p>観光産業等と連携した農産物直売所を支援し、新たな販売チャネルの開拓を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工・直売セミナーの実施4回、出張セミナーの実施3回 ・京丹後市直売組織による合同市の開催1回 ・新商品の開発、食育活動の実施等によるモデル直売・加工組織の育成4カ所 	

丹後産水産物のイメージアップと付加価値向上のためのブランド化と生産体制の強化・安定供給をめざします。

- ・トリガイ、イワガキの販売促進会議（4月、9月）開催。丹後水産物利用拡大キャンペーンの実施
- ・磯根資源を活用したつくり育てる漁業の振興と地域特産品の育成
宮津市栗田地区での養殖とり貝の生産拡大（受入種苗数7万個、生産目標額8百万円）
- ・担い手の確保・育成 漁業技術講習会等の開催（2回）

地域振興計画	織物、機械金属等地域産業の振興
事項1	地場産業の振興と新分野・新産業の創出による地域経済の活性化
<p>丹後織物の地域ブランドを生かした売れる商品づくりを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材を使い分け、現代的で割安な和装生地「KIMONOゆうゆう」と環境にやさしく高機能な洋装生地「ロハスなTANGO」を20点以上開発 ・デザイナー等専門家とのコラボレーションにより、4グループ24企業で和洋装地・生活関連商品の新商品開発力と企画力を強化し、販路を開拓 <p>織物・機械金属振興センターにおいて、人材育成を柱に技術の伝承と高度化に向けた取組を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後機業の後継者4人以上育成 ・機械金属業に係る試作開発技術者4人以上養成 <p>新事業や地域資源の活用など意欲ある中小企業の支援を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問や情報提供を強化し、産学公連携や新分野進出等に取り組む企業を2社以上支援 ・消費者との接点拡大とものづくり産業の活性化に向けて、「ええもん工房」づくりに25工房以上参加。海外展開をめざす機業に対しても引き続き支援 <p>丹後地域の資源を活用した新たな加工食品づくりを実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産物を活用した新たな特産品「丹後の旨いもんづくり」を目指し、18年度から支援している加工食品を商品化し、販売開始 京甘藷芋焼酎、ヤーコン（ジャム、アイスクリーム、茶、漬け物） エチゼンクラゲ（惣菜、羊羹、塩クラゲ） ・19年度に新たに支援する食品加工グループを公募し、旨いもんづくり委員会で支援する2つのグループを決定し、平成20年度の商品化に向けて支援 <p>「北部産業活性化拠点・京丹後」の平成19年度後半の一部先行開設に向けて、商工部と連携して取り組みます。</p>	

地域振興計画	生活・交通等基盤整備の推進
事項1	地域での生活や活動を支える条件整備と域内外の交流を活発にする基盤の整備
<p>地域の交流・産業基盤を活性化させる高速交通ネットワークである鳥取豊岡宮津自動車道の延伸に向けて着実に事業を実施します。</p> <p>地域や観光地間の連携強化のためネック箇所の解消等を行い、改良の必要性が高く府民要望の高い国道・主要地方道の改良整備、災害や気象条件の変化に強く、歩行者等地域に優しい道路づくりを実施します。</p>	

(供用開始予定箇所)

- ・ 国道 178 号養老伊根バイパス < 部分暫定供用 (伊根トンネル・伊根舟屋高架橋含む) >
- ・ 国道 178 号府中道路の暫定供用開始 (現道拡幅部の車道を完成)
- ・ 浜丹後線 (宮津市下世屋)
- ・ 野田川大宮線 (京丹後市大宮町上常吉)
- ・ 1.5 車線の道路整備により、生活道路 12 路線を整備

管内の各事業の事業進捗を図るため、用地取得事務の迅速かつ適正な実施に努め、地元関係者に十分説明し理解を得ながら、困難事案については、土地収用も視野に入れて、計画的かつ円滑に事業を実施します。

丹後地域における利用しやすい公共交通ネットワークの実現に向けて、交通事業者、管内市町及び地域とともに、「改善実行計画」に掲載しているパターンダイヤにより便利な場所へのバス停の移設、植栽事業などの取組を実行していきます。

北近畿タンゴ鉄道 (K T R) の地域での利用客の増加に向け、ノーマイカーデーなどの取組を広げるとともに、丹後広域観光キャンペーン協議会等の関係機関と連携した取組により、地域外からの誘客も進め、年間総輸送人員 200 万人をめざします。

また、平成 20 年度サポーターズクラブ会員 1 万人達成に向けて、制度の充実 (家族会員、3 年会員) や会員向け企画、沿線市町による P R の展開により、会員 5,000 人をめざします。

地域課題を協働して解決する N P O の活動を支援するため、丹後 N P O パートナシップセンターを育成・交流・連携拠点として強化し、相談体制の充実と N P O の企画公募による行政との協働事業を 150 人以上の参画を得て実施します。

地域振興計画	安心・安全、環境先進の地域づくり
事項 1	子どもからお年寄りまで安心・安全で元気に暮らせる地域づくりと環境先進地をめざす地域づくりの推進
<p>災害箇所の復旧事業の早期完了と災害予防事業を着実に実施していきます。</p> <p>< 平成 16 年台風災害関連 ></p> <ul style="list-style-type: none">・ 大手川：第 1 工区で護岸整備を本格的に実施。第 2 工区で橋梁、水路工事を実施。第 3 工区で橋梁改築工事を実施。用地買収を完了し、平成 21 年度完成をめざす・ 野田川：災害助成事業の全区間年度内完成・ 滝馬地区は、残りの砂防堰堤 2 基、流路工を完成・ 農地農業用施設、林道、林地崩壊地の復旧完了及び造林地災害の平成 20 年度完了に向けて着実な事業実施 <p>< 平成 18 年 7 月豪雨災害 ></p> <ul style="list-style-type: none">・ 復旧工事の年度内完了・ 間人地区 (京丹後市丹後町) : 出水期までに主要構造物完了、年度内に全て完了・ 国道 178 号 (宮津市岩ヶ鼻) 法面崩壊復旧工事：完了・ 農林関係施設の年度内復旧完了 <p>< 平成 19 年 1 月冬季暴風波浪災害 ></p> <ul style="list-style-type: none">・ 農林関係施設の全体事業費の 40 % を発注 <p>< 災害予防等 ></p> <ul style="list-style-type: none">・ 災害時における孤立集落の解消を図るため、防災対策事業等に着手 (宮津市日置～長江間・伊根町蒲入～京丹後市丹後町袖志間の 2 箇所)・ 水害に強い安定した基盤整備及び道路交通の確保のため氾濫の多い主な河川ネック箇所の解消と河川改修等を実施。福田川 < 用地買収・工事等 > 川上谷川 < 用地買収等 > 鳥取川 < 測量・設計等 > 俵野川 < 工事等 > 佐濃谷川 < 測量・設計等 >・ 新規に避難対策施設整備事業で避難場所や避難路の土石災害からの保全事業を実施	

防災関係機関の連携を強化するとともに、監視カメラの増設、土砂災害監視システムの強化、浸水マップの作成、市町のハザードマップ作成支援、特別警戒水位設定の追加などを行います。併せて、市町が行う防災パトロールの充実・強化に向けた支援を行い、府民に対する危険箇所の周知や緊急時の危機管理体制を強化します。

- ・特別警戒水位設定河川：野田川、竹野川、佐濃谷川
- ・洪水ハザードマップ作成支援河川：京丹後市（宇川）・伊根町（筒川）
- ・浸水想定区域図の作成：鱒留川、小西川等
- ・河川監視カメラの増設：福田川、川上谷川等

山地災害危険地区見直し作業により緊急度の高い危険地の把握を行い、山地災害危険地区をホームページ等で公表して府民へ危険箇所の周知を行います。

20名の子育て地域パートナーを新たに養成し、管内市町とパートナーの連携を深める検討会議、研修会などにより、既に養成したパートナーを含めたネットワークづくりを行います。

児童虐待については、専任職員を中心に児童相談所、市町のネットワークを強化・充実し、未然防止事業としてのカウンセリングを継続して実施します。

- ・未然防止事業（子育てサポートカウンセリング、丹後子どもの心のケア相談室）の広報活動年2回以上ほか

安心安全な地域医療体制の構築に向けた取組を充実します。

- ・小児科医師と他科医師の協力体制推進のための連絡会議を開催してマニュアルの見直し
- ・適切な小児救急医療受診を進めるために、乳幼児健診等での衛生教育等のあり方を検討する母子保健関係者の協議の場を新たに設定

丹後高齢者・はつらつ悠々事業を継続実施し、高齢者等の主体的活動の支援強化を目指して、高齢者を地域で支えるモデル事業を2地区で実施します。

- ・要介護の主要因「転倒」の予防に視点を置き、おたっしや体操の普及をツールとして、住民による転倒予防アドバイザー等を50名新たに養成し、活動を支援
- ・地域のはつらつ活動の収集と情報発信を市町等と協働で実施。はつらつ悠々シンポジウムの開催2回

認知症対策の取組を実施し、地域支援体制を充実します。

- ・認知症に関わる情報等を収集・整理し、提供できる体制を構築するとともに、市町と協働して、認知症のサポーターを養成するキャラバンメイトを20名養成

自然、歴史、産業などに培われてきた丹後独自の地域文化を振興し、国民文化祭に向けた気運を醸成していくため、次世代（小学生～高校生）への質の高い体験の場など、地域の特性を活かした個性あふれる取組を支援します。

地域の環境改善や地域での環境保全等の取組を実施し、環境に優しい地域づくりを進めます。

阿蘇海及び天橋立の環境改善及び環境保全等

<阿蘇海の環境づくり協働事業>

- ・阿蘇海に隣接する地元住民・団体・行政及び学識経験者で構成する「阿蘇海環境づくり協働会議（仮称）」を設置し、住民への啓発など、地域一体となった阿蘇海の環境改善及び環境保全の取組を実施

<天橋立世界遺産登録可能性検討調査>

- ・企画環境部とともに、「天橋立世界遺産登録可能性検討委員会（仮称）」を立ち上げ、世界遺産登録の可能性について調査・検討し、9月中の世界遺産暫定一覧表記載資産候補として文化庁への提案を行います。

<天橋立公園の松並木の保全・利活用の推進>

- ・天橋立継承準備委員会を継続運営し、府民協働体制の構築に向けた取組を実施
松林保全作業の本格化、ボランティアと官民協働作業のシステム化、地域や子ども達への学習会の開催や情報提供などによる天橋立の価値の発掘、共有、情報発信

<天橋立周辺地域での景観計画の取組の推進>

- ・天橋立周辺地域の景観を活かしたまちづくりを市町及び地元、関係団体ともに協働して検討し、景観法に基づく天橋立周辺景観計画案を年度内に策定

<丹後天橋立大江山国定公園（仮称）の新規指定>

- ・丹後半島から大江山に至る自然公園の新規指定への準備（平成19年7月指定目標）と関係市町長で組織する連絡協議会による要望活動・共催イベントや指定のPRの実施や施設整備基本計画の策定に着手

「丹後海と星の見える丘公園」の利活用促進

- ・丹後海と星の見える丘公園利活用連絡会議を年4回以上開催し、管内の関係機関や関連施設との連携を強化。各種の施設整備と情報発信を強化して、年間利用者50,000人を目標

丹後モデルフォレストの推進

- ・モデルフォレスト地域協議会の開催（2回）
- ・ホームページ等を活用した啓発、ワークショップの開催等（3回）
- ・森林利用保全重点区域の指定（1箇所）と保全計画の策定及び府民ぐるみの森林整備の実施（2回）など

野生鳥獣被害対策の充実

野生動物の生息状況や農山村の被害状況を継続的に調査し、野生動物と人との共生を目的に、市町と連携を図りながら、野生動物の生息環境の保全・整備や個体数の調整を実施

- ・モデル地区の設定と「人と野生鳥獣の共生の村づくり事業」1箇所実施
- ・モデル地区の現地調査及び事業評価
- ・ワークショップ、研修会の開催（10回）など

「京都府間伐推進計画」に基づく間伐等森林整備の推進

- ・目標間伐実施面積 500ha（17年度357ha 18年度見込み261ha）
- ・目標利用間伐量 2,300m³（17年度1,069m³）